

## 能登・加賀の記番印と二重丸印

丹後 隆雄 (P-54868・石川)

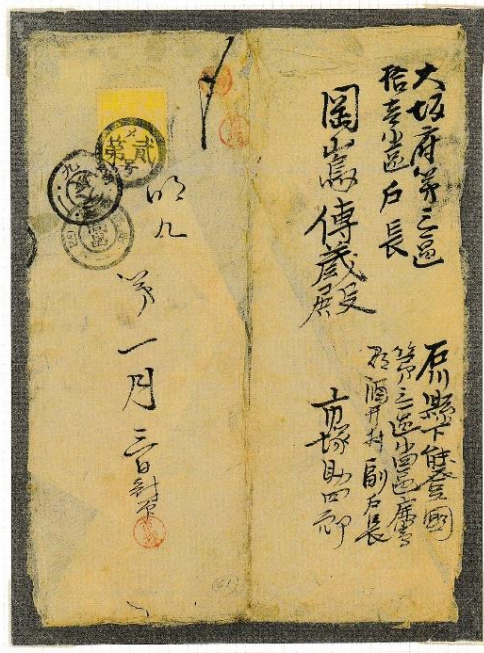
過疎地奥能登と加賀は白山の麓の村々の郵便物は少なく、偶然に近くの高島局がメ第貳号であり面白いなと思い、加賀と合わせて二重丸も集めてきました。二重丸の徳丸局は6年間しか開局しておらず、この葉書は30年探してやっと入手できました。

出品の二重丸印の手紙は北前船の時代と重なっていて、北前船の船頭が船主に商売の連絡であつたもので歴史を物語るものです。また、二重丸の鈴屋局は、出展者は寡聞にして50年でこの1点しか知りません。持っておられる方は、ぜひ、大事にしてくださいませ。白山の麓の小局の記番印なんて見たことさえありません。日本中で一番難しいのではないかと思います。

日本郵趣協会金沢支部の先輩から受け継いだものと合わせて、50年間の収集の全てではありませんが、今回の能登半島地震では、能登の半分は壊滅状態で過疎地に逆戻ってしまいました。隠れたコレクションも、失われたことでしょう。能登人として、未曾有の大地震を忘れないために、出展致します。

## 能登の記番印

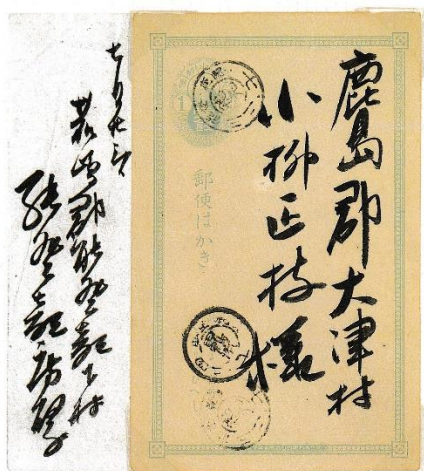
メ 第貳号(高島) ©高島 能登鹿島 明治9年



## 能登の二重丸印

【KG型】1874~1888(明治7~19)の間、全国的に広く使用された。

【KG型 徳丸 能登 鹿嶋】



【徳丸郵便所 開設 明治13. 6. - 廃止 明治18. 3. 31】

### 徳丸城

室町初期・南北朝期(1336~1392)能登の豪族・桃井氏によって築城され、応仁の乱(1467~1477)後、能登の守護・畠山氏の七尾城の出城となる。1577年(天正5)上杉謙信の侵攻を受け落城、程なくして畠山氏は滅亡した。

## 能登の二重丸印

【おやのみなど】鎌倉時代末期に定められた、海の古法「廻船式目」の中に記された「三津七湊(さんしんななそう)」に輪島の名が見られる。輪島は中世末、「おやのみなど(小屋湊・親湊)」と言われ、能登半島の位置からして日本海交流の重要な拠点であった。

能登・輪島 明治 17. 11. 10 ■ 丹後国・由良湊



三津七湊(さんしんななそう) 三津は、伊勢安濃津、筑前博多津、和泉堺津、七湊は、越前三国湊、加賀本古湊、能登輪島湊、越中岩瀬湊、越後今町湊、出羽土崎湊、津輕十三湊である。